

令和3年度 学校評価 報告書

報告日
令和4年3月15日

幼稚園名	芦屋市立宮川幼稚園
園長名	澁谷 倫子 印

1 今年度の重点目標

1 教育課程の推進
2 防災・安全教育の推進・継続
3 幼児期から小学校期への円滑な接続の推進

2 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

○評議員会及び学校関係者評価委員会を、書面で行った。
○保護者アンケートを実施、集約し保護者へ結果を周知している。
○生活発表会・学校評価アンケートの結果や園だより等を提示し評価を依頼した。

3 学校自己評価結果

(A:十分達成している B:達成している C:概ね達成している D:達成していない)

No.	分野	重点 項目	評価項目・取組状況	達成 状況	改善方策	学校自己評価結果及び 改善方策についての評価
1	教育課程	1 3	○運動遊びでは、宮川幼稚園で受け継がれている巧技台の遊び「みやよううえんち」を年長児から年少児へ継承し展開した。また「運動遊び年間カリキュラム」に基づき、教育課程の期に応じた運動遊びを推進した。 ○自然や生き物とのふれあいに重点的に取り組み、幼児が植物を育て、生き物の命にふれる活動を積極的に行った。さらに経験したことを話し合いや絵画制作で表現したり、ICT機器を活用して気づきを共有するなど様々な保育活動に展開した。 ○幼児期と小学校期との円滑な接続をめざし、小学校を訪問する機会をつくり、幼児が小学校の環境に親しみ、就学への期待感を高めることができるよう連携を図った。	B	○過去に作成した年間計画を具現化し幼児の実態に応じて計画を見直し、必要に応じて修正する。 ○園内外の身近な自然や生き物とのふれあいは幼児期にこそ十分経験させたい内容であることを認識し家庭ではできない経験を園でできるよう日常の保育に位置づける。また経験したことを豊かな表現活動に展開できる工夫を行う。 ○近隣の小学校2校と連携し、参観や施設利用等、比較的实现しやすい機会を活かして、幼児が小学校に親しみがもてる機会を増やす。	○コロナ禍においても運動遊びや行事等、様々な工夫をして教育活動を進めている。 ○園だよりやドキュメンテーション、動画の視聴等様々な方法で保護者へ保育内容を発信したことは評価できる。またアンケートから保護者が園の運営や教育内容に満足していることが伺える。今後も引き続き保護者理解を得ながら保育内容を推進されたい。 ○幼児期において実体験を重ねることは何より大切である。ICT機器の活用については「直接体験を補うもの」という理念を大切にしながら実態に即した形で進められたい。 ○幼小連携においては地域の就学前施設との連携も図りながら進められたい。
2	安全管理	3	○前年度までに構築した防災・安全計画を基に、全職員でその意義やねらいについて話し合いを重ね、水平・垂直避難訓練を計3回、その他の訓練等を年間9回行った。 ○講師を招聘し、防災教育について園内研修を行い、職員の防災意識の向上及び子どもたちの防災意識の芽生えが培われるようにした。	B	○前年度までの年間計画を基に、さらに幼児に防災意識が芽生える保育教材を開拓し実践する。また避難の手順等を再考し、よりよい避難方法について協議する。 ○地域の方に幼稚園の避難訓練や防災研究会に参加いただき連携を推進する。	○幼稚園で避難訓練等を確実に実施している。その経験の積み重ねから小中学校においても子どもたちが真摯に訓練に取り組む姿につながっている。 ○防災教育は保護者にとっても防災を知るよい機会となっている。地域においても今後、防災の取り組みを進めるにあたり、幼稚園との連携・協力を推進したい。

5 総合的な学校関係者評価

適切に園運営が行われている。
